

第Ⅲ部 今年度の事業内容と次年度以降の課題

1 委員会事業の概要

(1) 広島県合同輸血療法委員会の開催 (H26. 7. 26)

平成 23 年度の設置から 4 年目を迎えた「広島県合同輸血療法委員会」の活動として、7 月 26 日に委員会を開催した。委員会では、前年度の事業報告及び今年度の事業内容の検討を行い、各委員から了承を得た。また、第 4 回の委員会の開催に当たり、金沢赤十字病院検査部 二木俊彦先生から「輸血療法の均てん化にチャレンジ 小規模医療施設における輸血医療の特徴とその支援」と題した御講演をいただいた。

研究事業として輸血療法に関するアンケート調査及び訪問相談事業も引き続き実施することにも了承が得られた。

また、各医療機関の出席委員から、各輸血療法委員会の活動状況等について意見交換を行うとともに、前年度の訪問相談事業実施医療機関からの報告があった。

(詳細は、「第Ⅰ部 広島県合同輸血療法委員会」のとおり)

(2) 広島県合同輸血療法研修会の開催 (H27. 1. 31)

県内医療機関等から、160名（医師17名、薬剤師14名、看護師41名、臨床検査技師80名及びその他8名）の参加を得て開催した。プログラムは、特別講演として青森県黒石市国民健康保険黒石病院看護師長 西塚和美先生をお招きして「看護師として実践する Patient Blood Management」と題して特別講演をいただいたほか、県内医療機関の輸血療法の状況に関するアンケート調査報告やワークショップ「どうするんだ！？輸血前後検査！」を開催し広島県赤十字血液センター、広島赤十字・原爆病院、市立三次中央病院、医療法人光臨会荒木脳神経外科病院の各担当者から各施設の取り組む状況について発表いただき情報交換を行った。

(詳細は、「第Ⅱ部 広島県合同輸血療法研修会」のとおり)

(3) 県内医療機関における輸血療法の標準化に向けた相談応需

平成 24 年度から医療機関を訪問して相談応需業務を行う事業を実施しており、今年度も県内の医療機関から「輸血療法に関すること」について相談応需の希望を募り、申込みのあった医療機関を訪問して相談に応需した。（2 医療機関で実施）

<実施概要>

1 目的

県内の医療機関において、血液製剤の適正使用について、指針への適合を模索している機関に対し、助言及び実地指導を行い、県全体の輸血療法の標準化を図ることを目的として実施した。

2 内容

各医療機関が、血液製剤をどのように使用しているか、実際に医療機関を訪問して確認し、医療機関からの相談に応需するものである。

医療機関の施設規模にかかわらず輸血医療の底上げを図るもので、「出前研修とコンサルティング」をイメージしている。

日本輸血・細胞治療学会の I & A マニュアルを参考に委員会で独自のチェックリストを作成し、医療機関及び訪問者の相互で確認しながら実施した。（チェックリストは以下に掲載）

必要に応じ、輸血業務に携わる職員に対する研修も行った。

3 実施医療機関

- (1) 平成 27 年 2 月 20 日 病院 A
- (2) 平成 27 年 2 月 24 日 病院 B

4 実施者

広島県合同輸血療法委員会の委員（医師及び検査技師）及び事務局（赤十字血液センター職員）

5 実施結果の概要

（主な改善をお願いしたい事項、今後検討いただきたい事項等）

- 血液製剤の保管機器の設定を適切に行うこと。
- 自己血採取後は、採血現場でチューブシールすること。
- 対象事例がなく作成していないマニュアル及び管理簿を整備すること。
- 輸血同意書についても電子管理することが望ましい。
- 輸血前後の感染症検査の実施率向上に取り組んでいただきたい。
- 輸血療法委員会の設置
- 院内の輸血療法マニュアルの整備
 - ・ 同意書に HIV の項目を追加
 - ・ 輸血前後の感染症検査の実施
 - ・ 副作用の報告体制の構築
 - ・ 検査方法の再検討